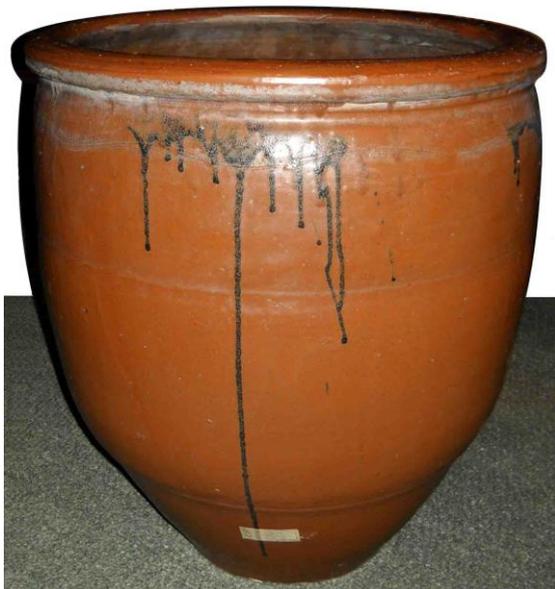


けんぱくものしりシート

みず 水がめ



● みず 水がめ ●

「水がめ」ってなんだろう？



中には何も入っていないね。
名前のとなりにじゃ口の絵があるのはどうしてかな？

水がめは、むかしの人が使っていた、
水を入れておくための入れものです。



今の時代で考えると水道のような役割を果たしていたので、じゃ口の絵が描いてあります。

水がめには水道管がありませんよ??



各家庭に水道が引かれるようになるまで、人びとは井戸やきれいな川からくんだ水を水がめにためて、料理に使ったり、食器を洗ったり、飲み水として使ったりしていたのです。



水の入った重たいバケツを運んで歩く「水くみ」作業は、女性や子どもの仕事でした。

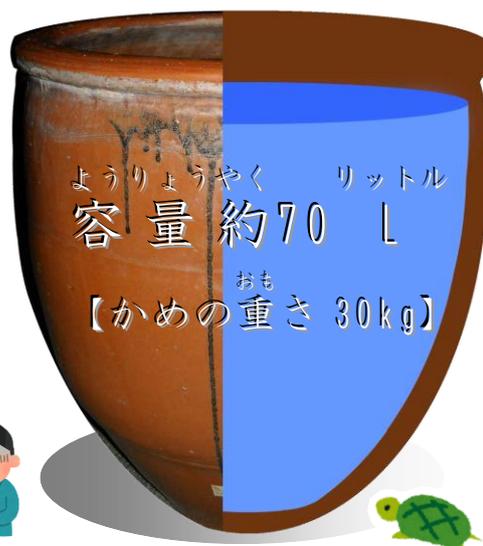
みず 水がめあれこれ

▼何でできているの？

ねん土にうわぐすり（ガラス質の薬品）をぬって
焼いた焼き物（とう器）の他に
石を削って作られたものもあり
ました。とう器はひびが入り
やすいので取りあつかい注意！



やく 約 55 cm



▼中の水はきれいな？

いま すいどうすい こと しょうどく 水
今の水道水と異なり、消毒されていない水
でしたので、おなかをこわすこともありました。



1950年頃の日本には、水道を引いている家は25%ほどしかなく、多くの家で
水がめが使われていました。水をくんだり運んだりする作業は大変な上に、一度にため
られる量が限られていたことから、むかしの人びとは水を大切に使っていました。

国土交通省の調査によると、一人が一日に使用する

水の量は、1965年に169 L、2010年には

290 L と45年間で約1.7倍に増えています。



いつでも自由に使えるようになったからといって、もったいない

水の使い方をするのはまちがいですね。私もむかしの人のように水を
大切に使います!!まずはシャワーの強さを少し弱めてみようかな。



とても良い心がけですね! むかしの道具を調べることは、私たちの生活を
ふりかえる良いきっかけにもなりますね。

参考 『岩手県史 第11巻 民俗篇』 岩手県 1965年 / 『昔のくらしの道具事典』 株式会社岩崎書店 2004年 他
写真(水をくむ・水を運ぶ・水を使う) 『写真ものがたり 昭和の暮らし 1 農村』 社団法人 農山漁村文化協会 2004年

らいげつ がつ
来月(11月)の
けんぱくものしりシートは
げんせい せいぶつ
現勢・生物-15だよ!
おたのしみに!



モッチャン



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>